



胃内視鏡健診について

―よく聞かれる質問に答えます―

「観察部位」通称胃カメラ（上部消化管内視鏡検査）では胃だけを観察していると思いませんか？

実は、のどから十二指腸までくまなく観察しています。以下の図Aのように咽頭く食道く胃く十二指腸下行脚まで観察しています。発生数の多い『胃がん』の有無を重点的にチェックしますが、その他に異常がないかもチェックしています。『がん』は胃だけではありません、十二指腸にも『がん』は発生します。最近、健診で発見された『十二指腸がん』の画像を（承諾を得て）お示しします。65歳の男性で無症状ですが、健康診断の内視鏡検査で十二指腸下行脚（図A↓）に白色調の丈の低い隆起（画像B赤枠内）を認めました。内視鏡的粘膜切除術が行われ『十二指腸がん』と診断されました。1年後の検査（画像C赤枠内）ではきれいな癒痕のみで再発はありません。このような病変は直接観察できる内視鏡検査でなければどうても発見はできませんし、『がん』も早期であれば体に負担の少ない内視鏡治療で根治ができます。このように胃カメラはのどから十二指腸まで注意深く観察しています。

胃カメラ検査時の麻酔ってこわくないの？

内視鏡検査時に行う麻酔は2種類あります。**局所麻酔**と**鎮静麻酔**です。

局所麻酔はのどの麻酔です。検査前室で凍らせた麻酔剤をなめていただき、のどをしびれさせます。のどの反射を軽くして、通過する内視鏡があまり苦しくないようにします。しばらくするとしびれはとれていきます。皆さんに行っています。

鎮静麻酔は静脈麻酔で希望者に行います。局所麻酔のあと検査台に移動していただき、横になった状態で検査直前に腕の血管から薬剤を投与する方法です。検査中はウトウトと眠ったような状態となります。強く声をかけると目が覚めます。人工呼吸器などは使いません。検査後に目が覚めてからお帰りいただけます。薬に検査ができますが、欠点は眠気など薬の影響が数時間残ることです。安全ため、当日は車の運転などは控えていただきます。

また**検査時に胃液のPCR法によるピロリ菌感染の有無も診断可能**です。ピロリ菌感染は胃の粘膜に慢性的な炎症（慢性胃炎）を引き起こし、それが長年にわたって続くことで、胃の粘膜が萎縮し（萎縮性胃炎）、最終的に一部ががん化します。日本人の胃がんの8割がピロリ菌関連と言われていますので、ピロリ菌感染診断を受けていない方はぜひこの際PCR検査を受けてください。

文責 青山病院健診センター長 北江



健診センター待合室

青山病院健診センターもこの春で早や5年目を迎えました。専用待合室には、手荷物を預けていただくロッカーを常設しています。お支払いもこの待合室でご精算いただいています。

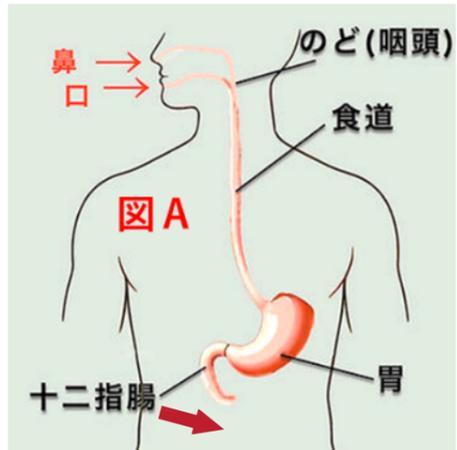
待ち時間が発生しないよう迅速な対応に努めています。



<画像C>



<図A>



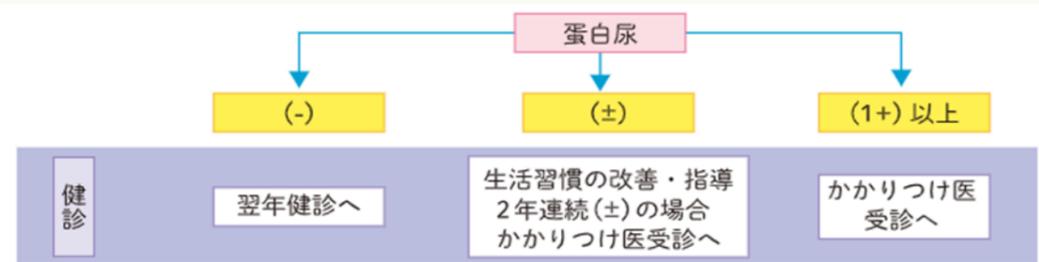
<画像B>



最近注目されている病気、

CKD（慢性腎臓病）をご存じでしょうか？

CKDは腎臓の働き（GFR）が健康な人の60%未満に低下する（GFRが60ml/分/1.73m²未満）か、あるいはタンパク尿が出るといった腎臓の異常が3ヶ月以上続く状態を言います。CKDは3つの点で注目されています。第1は危険な病気であること。CKDは重症化すると人工透析や腎移植が必要となるだけでなく、軽度のCKDでも心臓病や脳卒中のリスクを高め、死亡リスクを増加させます。第2にCKDはありふれた病気です。日本ではCKD患者は約2,000万人（成人5人に1人）いると推計され、新たな国民病ともいわれています。第3に、CKDは治療可能な病気です。しかし、初期は自覚症状に乏しく、CKDに該当する方のうち約90%が未診断と報告されています。さて、CKDを診断するてがかりは、健診でうけていただく検尿での蛋白尿陽性です。CKD診療ガイド2024によると図のように蛋白尿(+)以上であればかかりつけ医で尿蛋白定量（尿蛋白/Cr比）が必要であり、2年連続蛋白尿(±)の方もかかりつけ医で尿蛋白定量（尿蛋白/Cr比）が必要とされました。



健診での尿蛋白測定は試験紙法ですので、尿の濃さにより蛋白量は容易に変化しますので定量ができません。ぜひ蛋白尿陽性のかたはかかりつけ医で尿蛋白定量（尿蛋白/Cr比）や尿沈渣を受けてください。残念ながら、健診で蛋白尿陽性であっても尿蛋白定量に進む方が少ないのが現状です。CKD早期診断のため、健診で蛋白尿陽性の方は既読スルーしないで、2次検査の尿蛋白定量検査を受けてください。尿蛋白定量（尿蛋白/Cr比）は随時尿と尿中クレアチニン測定で簡単にできます。糖尿病では尿アルブミン/Cr比となります。CKDのかたの治療目標は以下の図のごとく末期腎不全への進展阻止、心血管疾患の発症抑制、死亡リスクの軽減であり、最近ではCKDの治療は目覚ましく進歩しています。



文責 青山病院 健診センター長 北江

青山病院 健診部からのお知らせ

令和7年度は、沢山の方々にご来院いただきありがとうございました。ますます皆様に青山病院健診センターで健診を受けて良かったと思っただけけるよう頑張つてまいります。

さて、令和8年度からは、協会けんぽ健診（生活習慣病予防健診）に新しいコースが増設されます。今までの健診コースに加え、**協会けんぽ人間ドックコース**（35歳以上74歳までの方）、**協会けんぽ節目健診**（旧付加健診）（受診年度において40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳の方）、**協会けんぽ20・25・30歳健診**（便潜血検査・胃部検査無し）、の3つが加わります。

※全て対象の年齢は年度年齢になります。

もちろん、令和8年度も、藤井寺市胃がん検診・羽曳野市人間ドック、各種ワクチンもご用意しております。当院では、带状疱疹ワクチンのキャップボックスも接種可能です。

今後も皆様により良い健診をお届けできるようスタッフ一同頑張つてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。お気軽にご連絡くださいませ。

<令和8年度から新しく追加される 協会けんぽ健診（生活習慣病予防健診）コース>

- 協会けんぽ人間ドックコース → 35歳以上74歳までの方ならどなたでも受診可
- 協会けんぽ節目健診(旧付加健診) → 受診年度において40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳の方（5歳刻みの節目）。
- 協会けんぽ20・25・30歳健診 → 受診年度において20歳、25歳、30歳の方。（但し、便潜血検査・胃部検査無し）